

日本の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）3 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

雌阿寒岳 [活発な状況]

21 日にポンマチネシリ山頂の赤沼火口と北西側斜面で小規模な噴火が発生し、雌阿寒岳南東側で微量の降灰が観測されたほか、山頂北西側斜面でごく小規模な泥流が発生した。

桜 島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

ごく小規模な噴火は発生したが爆発的噴火は発生しなかった。

諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

3 日及び 5 日～7 日に爆発的噴火が多発し、これらの日を含め、噴火が観測された日が 8 日間（2～8 日、15 日）あった（爆発的噴火の月回数は 243 回）。

【活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山】

十勝岳 [やや活発な状況]

62 - 2 火口は噴煙活動が活発で、高温の状態が続いていると推定される。

樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群は高温状態が続いていると推定される。

浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震および微動の発生回数ならびに火山ガスの放出量がやや多い状態が続いている。

三宅島 [やや活発な状況]

山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も依然として多い状態が続いている。

福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

15 日に変色水が確認された。

阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2） 3 月 24 日に静穏な状況（レベル 1）から引き上げ]

24 日の観測で、中岳第一火口の湯だまり量の減少が見られ、また、湯だまりの表面温度がやや高くなった。ごく小規模な土砂噴出も観測された。火山活動がやや活発な状態になった。

霧島山(新燃岳) [やや活発な状況(レベル 2)]

火山性地震のやや多い状態が続いている。

霧島山(御鉢) [やや活発な状況(レベル 2)]

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発で、振幅の小さな火山性微動もやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況(レベル 2)]

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

口永良部島 [やや活発な状況(レベル 2)]

火山性地震はやや多い状態が続いており、22 日には振幅のやや大きな火山性微動が発生した。

【静穏な状況であったが、観測データに変化がみられた火山】

伊豆東部火山群 [静穏な状況]

30～31 日に地震が一時的にやや増加し、わずかな地殻変動も観測された。

若尊

28 日に地震が一時的にやや多発した。

末尾の資料

- 期間中に発表した火山情報の一覧表
- 過去 1 年間の火山活動の状況

注 1 本資料で示すレベルは、火山活動度レベルを導入した火山におけるレベルである。

注 2 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
- ：その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字：火山活動度レベル



図 1 今回記事を掲載した火山

各火山の活動解説

雌阿寒岳 めあかんだけ 【活発な状況】

3月21日、雌阿寒岳の赤沼火口と山頂北西側斜面で小規模な噴火が発生し、雌阿寒岳南東側で微量の降灰が観測されたほか、山頂の北西側斜面ではごく小規模な泥流が発生した。



図2 雌阿寒岳北西側上空から撮影した雌阿寒岳山頂付近（3月22日撮影）

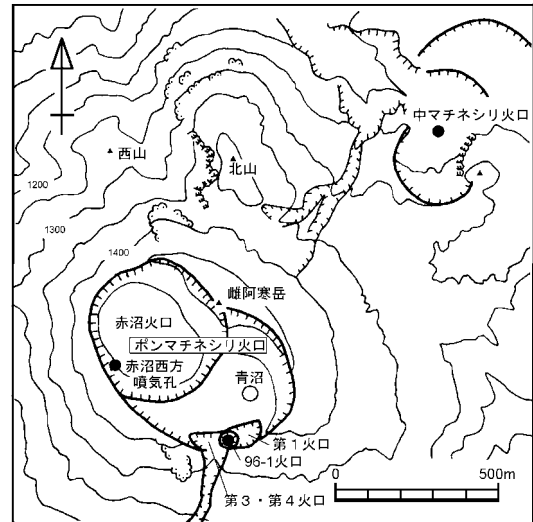


図3 雌阿寒岳 山頂周辺図

21日06時28分に振幅の大きな火山性微動が発生した。赤沼火口における噴火はこの火山性微動が発生した頃に始まったと考えられ、また、北海道の監視カメラ（山頂火口の西約3.5km）によれば、北西側斜面の噴火は06時37分頃に始まったことが確認された。なお、気象庁の監視カメラ（山頂火口の南南東約16km）による観測では、08時10分頃に火口縁上400mまで上がり南東に流れる灰色の噴煙が確認された。火山性微動の振幅は徐々に小さくなりながら同日10時30分まで続いた。この噴火に伴う空振は観測されなかった。

雌阿寒岳で噴火が発生したのは、1998（平成10年）年11月9日の小噴火以来である。

21日に上空から行った観測の結果¹⁾、北西側斜面（標高1,300m付近）に形成された複数の小さな噴気孔と2つの沢を流れるごく小規模な泥流が認められた（図4）。22日に実施した上空からの観測²⁾では、二筋の泥流のうち1つは標高1,000m付近まで達しているのが認められた（幅は数m、長さ約1,000m）。ポンマチネシリ火口周辺では、赤沼火口から南東方向約700～800mの範囲にかけて明瞭な火山灰の痕跡がみられた。赤沼火口は噴煙が充満しており、火口内を観察することはできなかったが、火山灰の分布状況および噴火以降の活発な噴煙活動の状況から、赤沼火口内でも噴火したものと推定される。

21日および22日に行った降灰調査の結果、釧路市の国道240号線の温根内（おんねない）橋付近

（雌阿寒岳の南東約10km）や釧路市飽別（あくべつ：同南東約14km）などで微量の降灰があったことを確認した（図5）。北海道大学によると、採取した火山灰に新しいマグマ物質は認められず、今回の噴火は小規模な水蒸気爆発であったと推定された。

27日に上空から行った観測の結果²⁾では、赤沼火口内は噴煙が充満し詳細は不明であったが、火口内の北西から北側にかけて活発な噴煙活動が認められた。噴煙には微量の火山灰が含まれていると思われる、火口付近一帯（特に火口北から東側にかけて）の雪面上に火山灰の痕跡が認められた。北西側斜面の噴気活動も依然活発な状態であったが、斜面に沿って複数ある噴気孔のうち最下部に位置する噴気孔では噴気活動の低下がみられた。北西側斜面の標高約1,000mまで流下していた泥流は、その後の積雪に覆われて不明瞭になっており、新たに泥流が発生した痕跡は認められなかった。また、ポンマチネシリ96-1火口および中マチネシリ火口の状況に異常は認められなかった。

雌阿寒岳では、2月18～20日に振幅の小さな火山性地震が多発した後は、その後もやや多い状態が続き、3月11日から12日に振幅の小さな火山性地震が再び多発した（11日576回、12日122回）（図6）。その後も地震回数はやや多い状態が続き、19日には振幅の小さい火山性微動が観測された。噴火発生後も、21～23日にかけて1日あたり26～

73回とやや多く観測されたが、24日以降は1日あたり10回前後で推移した。23日には振幅の小さな火山性微動が2回観測されたが、噴煙の状況に変化はみられなかった。

- 1)陸上自衛隊の協力による
- 2)北海道の協力による

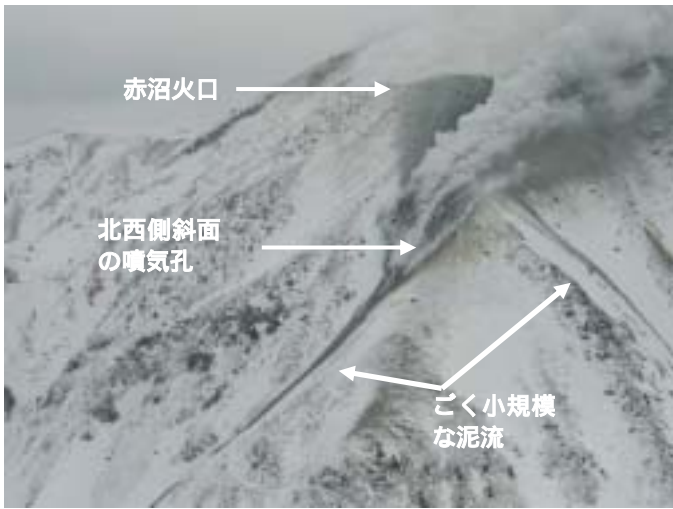


図4 雌阿寒岳北西側上空から撮影した雌阿寒岳山頂付近（3月21日撮影）

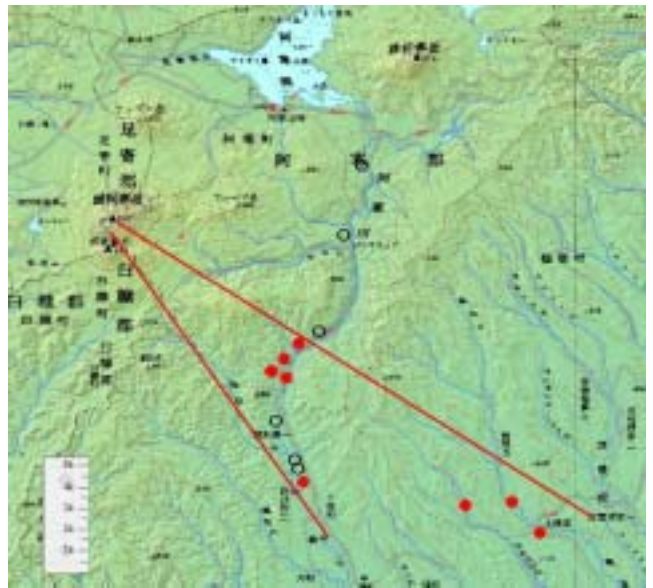


図5 雌阿寒岳 降灰分布図

● 降灰が確認された地点 ○ 降灰が確認されなかった地点

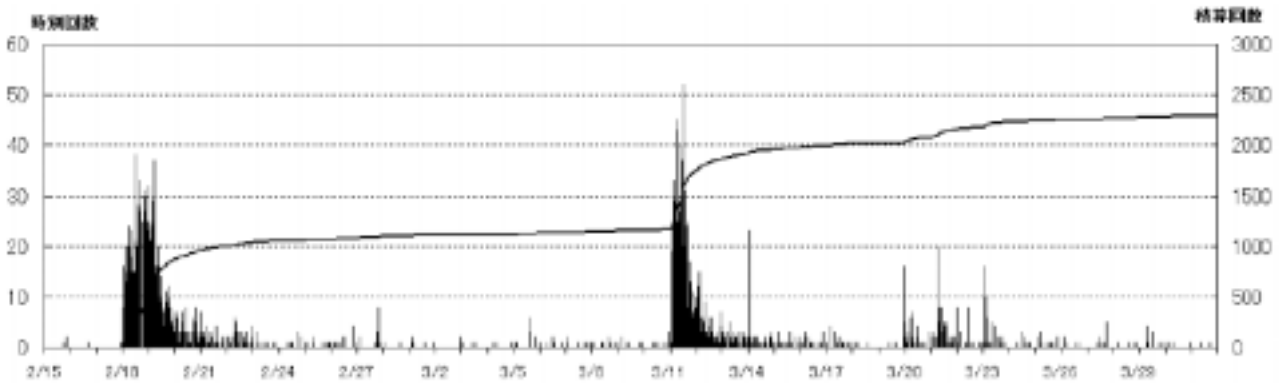


図6 雌阿寒岳 時間別地震回数（2006年2月15日～3月31日）

とろちだけ 十勝岳 【やや活発な状況】

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いており、噴煙は白色で高さは火口縁上おおむね 200m以下で経過した。前期間と比べ噴煙活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

なるまえさん 樽前山 【やや活発な状況】

A 火口及びB 噴気孔群の噴煙の状況に特段の

変化がみられていないことから、これらの火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温状態が続いていると推定される。

火山性地震の発生状況には特段の変化はなく、火山性微動は観測されなかった。傾斜計及びGPSによる地殻変動観測では、火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

くつたら 倶多楽 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

うすざん 有珠山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データ

に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

北海道駒ヶ岳 【静穏な状況】

GPS による地殻変動観測ではわずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

恵山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

岩手山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

秋田駒ヶ岳 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

吾妻山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

安達太良山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

磐梯山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

那須岳 【静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

草津白根山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

浅間山 【やや活発な状況（レベル2）】

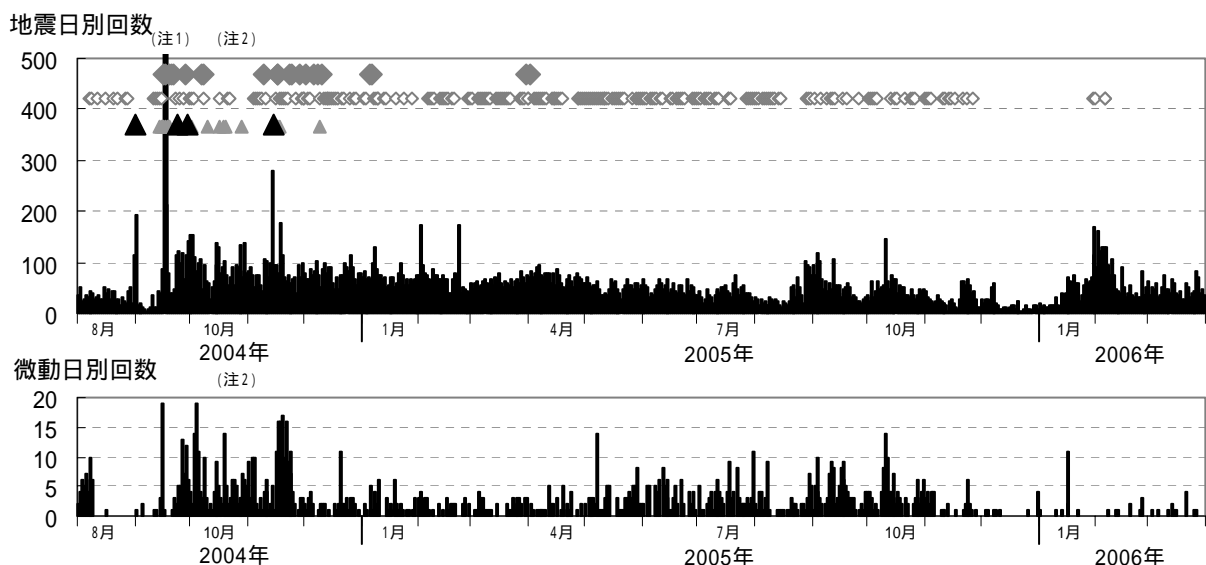
火山性地震および微動の発生回数ならびに火山ガスの放出量がやや多い状態が続いている。

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね火口縁上 200m で推移した（最高は 300m）。今期間、火映は観測されなかった。

火山性地震は、1 日あたり 29～81 回と増減を繰り返しながらやや多い状態で経過した。増加した地震のほとんどは山頂火口直下のごく浅いところで発生したと推定される。火山性微動は時折発生し、期間中の発生回数が 13 回とやや多い状態が続いている（図 7）。

7 日、15 日及び 22 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 200～700 トンと、依然としてやや多い状態が続いている。（図 8）。

山体周辺の GPS 連続観測では、浅間山深部へのマグマの注入、蓄積を示すと考えられる水平距離の伸びは、2005 年 6 月以降認められていない。また、傾斜計による観測及び気象研究所と共同で行っている光波測距観測では、火山活動の高まりを示すような変化はなかった。



(注1) 2004年9月16日の地震回数は1406回、17日は624回。

(注2) 2004年10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

図 7 浅間山 2004 年 8 月～2006 年 3 月の噴火、火映、火山性地震及び微動の日別発生状況
 : 中爆発、 : 小噴火以下、 : 火映（肉眼）、 : 火映（高感度カメラ）

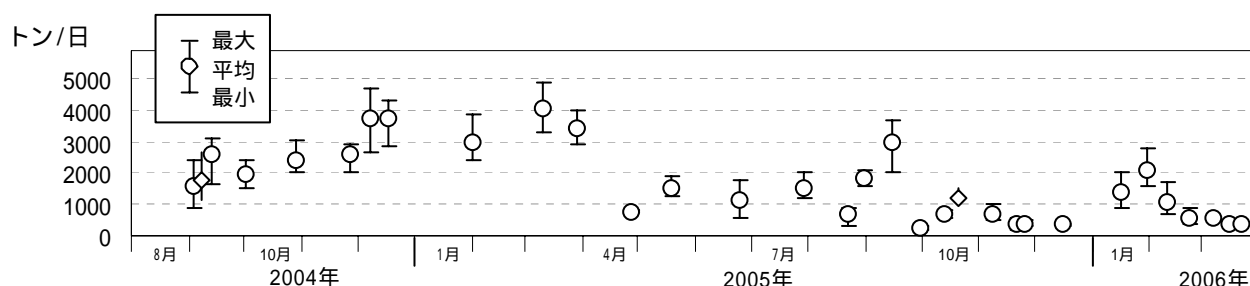


図8 浅間山 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2004年8月～2006年3月）
 ○：車載トラス、◇：ヘリ搭載トラス

新潟焼山 【静穏な状況】

地震活動や山頂部の噴気の状況に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

御嶽山 【静穏な状況】

地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

白山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、また、国土交通省金沢河川国道事務所の土砂災害監視用カメラでは山頂部に噴気は認められず、火山活動は静穏に経過した。

富士山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

伊豆東部火山群 【静穏な状況】

30～31日に地震が一時的にやや増加し、わずかな地殻変動も観測されたが、噴煙、低周波地震や火山性微動は観測されず、火山活動は特段の変化なく静穏に経過した。

30日午後から、伊東市の川奈崎沖の深さ約7～10km付近を震源とする微小な地震がやや増加した。31日2時ころを境に地震回数は次第に減少していたが、30日13時00分にM3.1（深さ8km）（暫定値）の地震が発生し、東伊豆町などで震度1を観測した。なお、火山性微動及び低周波地震は観測されていない。

この地震活動に伴い、東伊豆町に設置している体積歪（ひずみ）計や伊東市に設置されている防災科学技術研究所の傾斜計にわずかな変化が観測された。

同様な地震活動は過去にもしばしばみられているが、今回の地震活動は今年1月25日～31日に発生した地震活動の東側に位置し、いずれも規模

の小さなものであった。

伊豆大島 【静穏な状況（レベル1）】

地殻変動観測では、長期的な山体の膨張傾向は継続しているが、地震活動には特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

三宅島 【やや活発な状況】

多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

火山性地震は8日から18日にかけて、火口直下を震源とする地震が断続的にやや多い状態となり、10日には日回数が126回となった。また、22日にも02時から04時にかけて一時的に地震が増加し、03時15分には空振を伴う低周波地震が発生した³⁾。震源はほとんどが山頂火口直下に分布し、前期間までと比べて特段の変化はなかった。火山性微動は観測されなかった。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね火口縁上200～300mで推移した（最高は28日の1,000m）。

2日、3日、6日及び13日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,100～3,400トンと依然として多い状態が続いている（図9）。（また、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。）

地磁気全磁力連続観測では特段の変化はみられていないことから、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

GPSによる地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

3) 三宅島では、空振を伴う低周波地震が発生した際に山頂火口から火山灰噴出を伴うことがある。

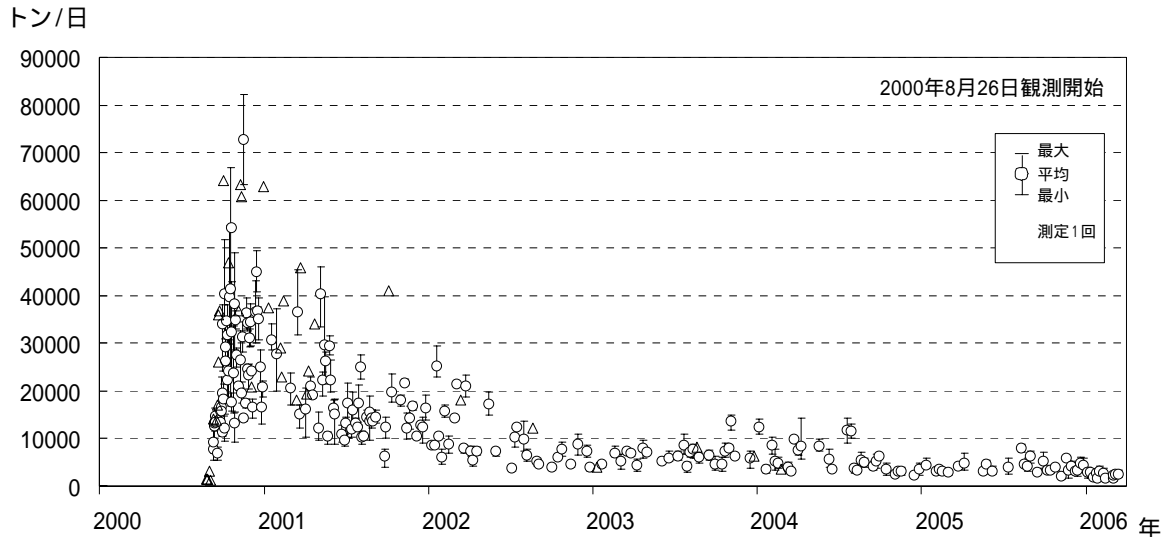


図 9 三宅島 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2000年8月～2006年3月）
 2004年秋以降は1日あたり2千～5千トン程度で、依然として多い状態が続いている。
 観測は、陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力により実施。

はちしょうじま

八丈島 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

にしのおしま

西之島 【静穏な状況】

16日に海上保安庁が上空から行った観測によると、噴気等は確認されず、火山活動に特段の変化は認められなかった。島の周囲に変色水が確認されたが、火山活動の高まりを示すものではないと考えられる。

ふんがあさね

噴火浅根 【静穏な状況】

16日に海上保安庁が上空から行った観測によると、噴火浅根付近の海面に火山活動によると思われる少量のガス（泡）が噴出しているのが確認されたが、火山活動の高まりを示すものではないと考えられる。

いおうじま

硫黄島 【静穏な状況】

15日に海上保安庁が上空から行った観測によると、噴気活動及び変色水の状況に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

ふくとくおかのぼ

福德岡ノ場 【やや活発な状況】

15日に海上保安庁が上空から行った観測によると、福德岡ノ場付近に湧出点から西方へ延びる長さ約6,000m、幅約500mの青白色の変色水が確認された。

くじゅうざん

九重山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

あそざん

阿蘇山 【やや活発な状況（レベル2） 3月

24日に静穏な状況（レベル1）から引き上げ】

24日の観測で、湯だまり⁴⁾量が約8割と減少傾向にあり、湯だまりの表面温度が約73度と高く、またごく小規模な土砂噴出の発生が確認された。このため、同日火山活動度レベルを1から2に引き上げた。

火山性連続微動の振幅は期間を通して小さい状態で経過し、孤立型微動及び火山性地震の発生状況、噴煙の状況には特段の変化はなかった。GPSによる地殻変動観測や、気象庁地磁気観測所が行った地磁気全磁力連続観測でも火山活動によるとみられる変化はなかった。

⁴⁾湯だまり：活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50～60度の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起こり始めることが知られている。

うんぜんだけ

雲仙岳 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、静穏に経過した。

霧島山（新燃岳）[やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震は、発生回数が時折 30 回を超える日があるなどやや多い状態で経過した。震源は新燃岳火口直下の浅いところと推定される。火山性微動は発生しなかった。

期間中、監視カメラによる観測では火口縁を超える噴気は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

3 月 8 ~ 10 日に行なった現地観測では、火口内及び火口周辺の噴気量はごく少量で、前回（2 月 2 日）と比べて変化はなく、また、新たな熱異常の領域もなかった。

霧島山（御鉢）[やや活発な状況（レベル 2）]

火口内の噴気活動は消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、火口縁を超える噴気が時々観測された。

振幅の小さな微動が時々観測され、月回数は 6 回とやや多い状態であった。火山性地震は少ない状態が続いている。GPS による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

若尊

28 日 02 時から 07 時にかけて震源の深さがごく浅い地震がやや多発した。最大地震は 28 日 02 時 54 分に発生した M1.9（暫定値）であった。しかし、変色水域等の異常はなく、火山活動に特段の変化は認められなかった。この付近では、これまでも時々地震活動が一時的にやや活発となることがあった。

桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

期間中、ごく小規模の噴火は発生したが、爆発的噴火等は発生せず、桜島の噴火活動としては比較的静穏な状態が続いている。

火山性地震は、長期的には少ない状況であるが、今期間はやや増加した。GPS 連続観測による地殻変動観測では、長期的に東西方向のわずかな伸びの傾向が続いている。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

噴煙活動は依然としてやや活発で、白色噴煙が硫黄岳火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は火口縁上概ね 400m で推移した。

火山性地震及び火山性微動の発生状況に特段の変化はなかった。

口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

22 日 14 時 15 分頃、振幅のやや大きい火山性微動が発生した。振幅のやや大きな火山性微動の発生は平成 15 年 8 月 11 日以来である。上屋久町役場口永良部島出張所によると、噴気活動等に特段の変化は見られなかった。なお、火山性微動の月回数は 7 回（2 月：2 回）と発生回数に大きな変化はなかった。

火山性地震の発生はやや多い状態が続いており、期間中 292 回を観測した（図 10）。

監視カメラ（新岳の北西約 4km に設置）による観測では、噴気は観測されなかった。また、4 日実施した上空からの赤外熱映像観測では、火口で温度の高い領域が引き続き認められた。

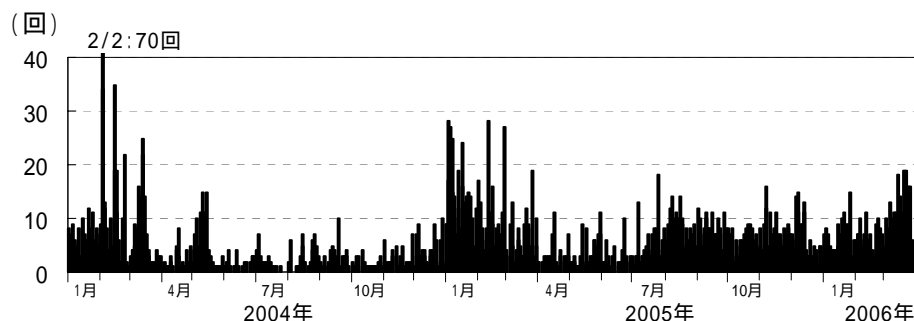


図 10 口永良部島 火山性地震の日別発生回数（2004 年 1 ~ 2006 年 3 月）
2005 年 12 月 15 ~ 28 日は京都大学のデータによる。

諏訪之瀬島 すわのせしま **【活発な状況（レベル3）】**

3日及び5～7日に爆発的噴火が多発した。

3日と5～7日には爆発的噴火が多発し、3月の爆発回数は243回に上った（図11）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、4日、6日及び7日には集落（御岳の南南西約4km）で降灰があった。また同出張所からの報告では、噴火による噴煙の最高は火口縁上1,200mであった。

噴火活動の活発化に伴い、2～8日と15日に火山性連続微動を観測した。火山性地震も、5～7日に増加し、5日には354回と多発した。

硫黄鳥島 いおうとりしま **【静穏な状況】**

16日昼ごろ、沖永良部島にある沖永良部測候所（硫黄鳥島の南東約65km）が屋外で感じる程度のかすかな臭気を確認した。当時の気象条件から判断して、硫黄鳥島の噴気に含まれる火山ガスによるものと考えられる。沖永良部島では、これまでも同様な臭気が年に1～2回程度の頻度で確認されている。当時の硫黄鳥島の噴気活動の状況は不明だが、気象庁気象研究所と東京大学地震研究所が共同で実施している島内での地震観測によると、期間中の地震活動には特に異常はなかった。

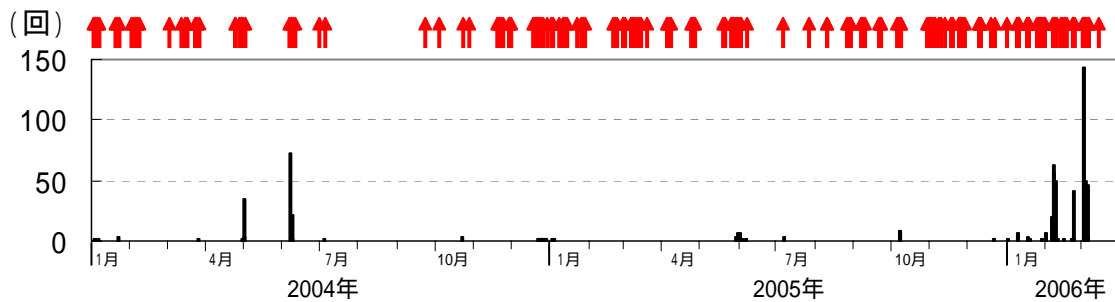


図 11 諏訪之瀬島 爆発的噴火の日別発生回数及び噴火の発生状況
（2004年1月～2006年3月） は噴火発生日

資料 1 2006 年 3 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
雌阿寒岳	火山観測情報第 3 号	11 日 11:00	11 日 01 時以降火山性地震が増加。
	火山観測情報第 4 号	12 日 11:00	火山性地震の回数は減少したが、やや多い状態が継続。
	臨時火山情報第 1 号	21 日 06:43	06 時 28 分頃から火山性微動を観測、噴火の可能性。
	火山観測情報第 5 号	21 日 07:05	火山性微動が継続。上空の風予想及び降灰の可能性。
	火山観測情報第 6 号	21 日 08:50	ごく小規模な噴火が発生した可能性あり（08 時 10 分頃、灰色の噴煙を観測）。火山性微動は継続中。
	火山観測情報第 7 号	21 日 10:50	南東山麓で微量の降灰を確認。
	火山観測情報第 8 号	21 日 12:20	噴火の発生場所は山頂の北西側斜面。降灰調査結果。火山性微動は 10 時 30 分頃終了。
	火山観測情報第 9 号	21 日 16:10	上空からの観測結果（噴火地点、小規模な泥流の確認）。
	火山観測情報第 10 号	22 日 10:10	21 日から 22 日 10 時までの活動状況。北大による降灰分析結果。
	火山観測情報第 11 号	22 日 16:30	上空からの観測結果（泥流の状況、赤沼火口の状況）。降灰調査結果。21 日から 22 日 16 時までの活動状況。
	火山観測情報 第 12～20 号 (1 日 1 回発表)	23 日～31 日 16:00	活発な火山活動が継続。前日～当日（15 時または 16 時）の活動状況（噴火はなし）。上空からの観測結果。
浅間山	火山観測情報第 9 号	3 日 16:00	2 月 24 日～3 月 3 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 10 号	10 日 16:00	3 月 3 日～3 月 10 日 15 時の活動状況。7 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 11 号	17 日 16:00	3 月 10 日～3 月 17 日 15 時の活動状況。15 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 12 号	24 日 16:00	3 月 17 日～3 月 24 日 15 時の活動状況。22 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 13 号	31 日 16:00	3 月 24 日～3 月 31 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
三宅島	火山観測情報 第 60～90 号 (1 日 1 回発表)	1 日～31 日 16:30	最近の火山活動評価、前日 16 時～当日 16 時の活動状況及び上空の風の予想。
阿蘇山	火山観測情報第 4 号	24 日 15:00	火山活動はやや活発な状態になった（湯だまりの表面温度高い、土砂噴出を観測）。レベルを 1 から 2 に引き上げ。
口永良部島	火山観測情報第 1 号	22 日 16:10	振幅のやや大きな火山性微動が発生した。レベルは 2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第 5 号	3 日 10:30	3 日 02 時頃から爆発的噴火が多発している。レベルは 3。
	火山観測情報第 6 号	10 日 11:10	爆発的噴火は少なくなった。レベルは 3。

資料2 過去1年間の火山活動の状況

火 山 名	平成17年 (2005年)												平成18年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
雌阿寒岳	活動															
十勝岳	活動															
樽前山	活動															
吾妻山	活動 レベル															
草津白根山	活動 レベル															
浅間山	活動 レベル															
伊豆大島	活動 レベル															
三宅島	活動															
福德岡ノ場	活動															
九重山	活動 レベル															
阿蘇山	活動 レベル															
雲仙岳	活動 レベル															
霧島山（新燃岳）	活動 レベル															
霧島山（御鉢）	活動 レベル															
桜島	活動 レベル															
薩摩硫黄島	活動 レベル															
口永良部島	活動 レベル															
諏訪之瀬島	活動 レベル															

活動状況(活動)

- : 噴火した火山
- : 活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

- : 小規模な噴火が発生かその可能性
(吾妻山、草津白根山、浅間山、雲仙岳では「小～中規模噴火が発生かその可能性」)
- : やや活発な火山活動
(桜島については、「比較的静穏な噴火活動」)
- : 静穏な火山活動

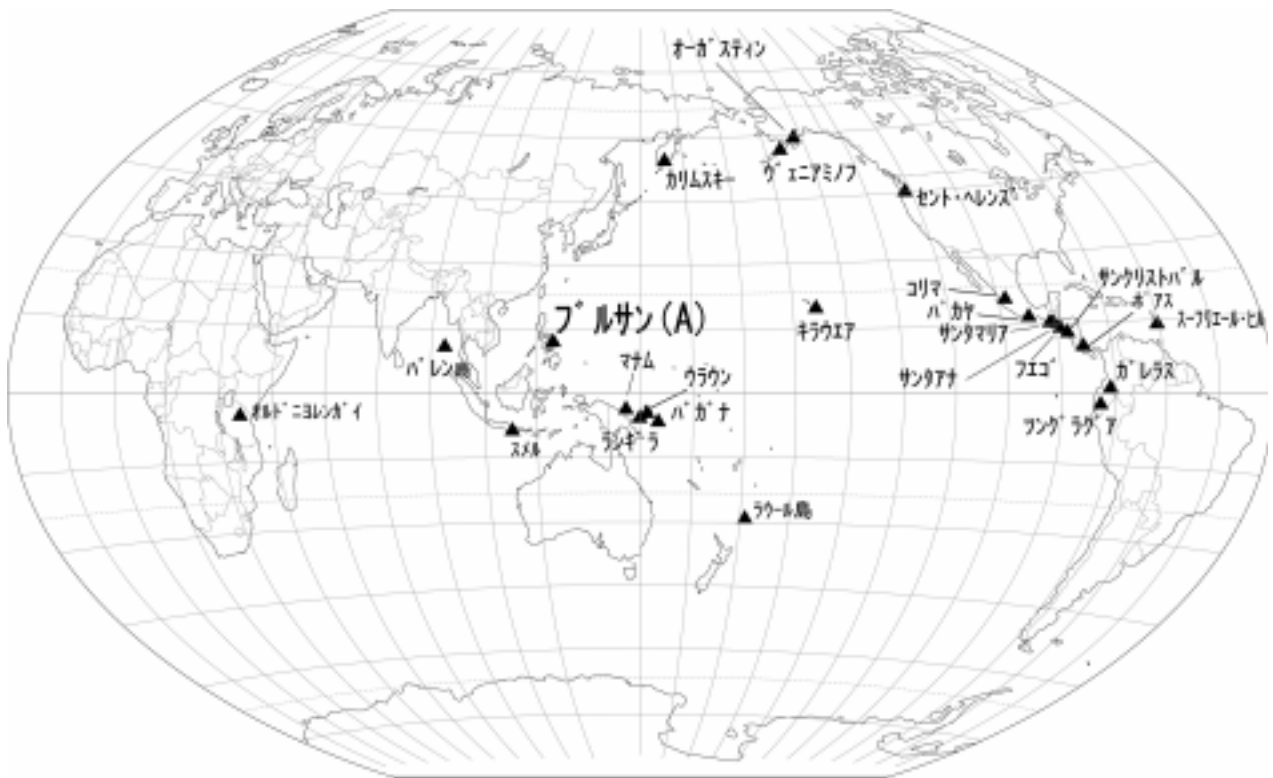
世界の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）3 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

ブルサン火山（ルソン島 フィリピン）（図中A）

21 日に、山頂火口で中規模の水蒸気爆発が発生し、火口上約 1.5 km まで噴煙が上がった。地震波形の解析によれば噴火は 20 分間ほど継続した。噴火に伴い火山雷と鳴動も観測された。噴煙は火口の北から南西側に流れ、火山近傍のいくつかの都市で降灰があった。フィリピン火山地震研究所は、このような噴火は活動が活発化する前のブルサン火山ではしばしば認められる活動であるとし、より大きな噴火が起こる可能性を指摘している。なお、ブルサン火山の警戒レベルは 1 で、山頂から 4 km の範囲は立ち入り禁止となっている。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）



平成 18 年 3 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）